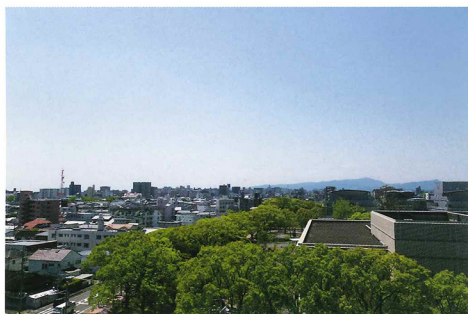


「ホームシアターを開始する」というボタンをタップするだけで、ブラインドが閉まり、照明がすべて消える。プロジェクターの電源が入り、そして130インチのスクリーンがスルスルと降りてきて映画上映がはじまるのだ。



周辺には高い建物がなく、街を見下ろせるほどに開けたリビングからの眺望。ちなみにK邸はメゾネットになっており、寝室などは下の階にあるため、LDKだけの間取りを確保できた。

## 家族の誰もが使える ワンタッチオペレーション

空間と機器とが美しく調和しているのは、写真をご覧くださいただければわかるだろう。AVアンプなどの設置スペースを必要とする機器は、リビングの隣部屋のストレージに隠し、普段よく使うゲーム機やレコーダーなどはテレビ下のラックに格納するなど、不必要にAV収納を大きくしないように工夫している。スピーカ

「マンションの一角をリノベーションするにあたり、ホームシアターを導入したかったのと、子どもたちが自由に音を出してもよい住空間にすることが理想でした」と、Kさん。ここはまるで新築のような空間だが、スケルトン状態からリノベーションにより作り上げた空間である。都城市に本社を構える下森建築と共にデザインを練り上げたが、ホームシアターは門外漢。設計担当者と一緒に木田電業に足を運んだという。インストーラーを担当した木田弘信氏は、そこで要望をヒアリング。「空間の美しさは損ねない」「画と音のパフォーマンスにもこだわりたい」、そして、「煩雑な操作なしに家族が使えるようにしたい」といったKさんの願いをまとめ上げ、丁寧に実現していった。



まるで新築のような高い完成度を誇るLDKだが、実はリノベーションによって作り上げられた。Kさんの感性が細部まで届く空間だ。

機器だけではなく操作性も美しくインストール

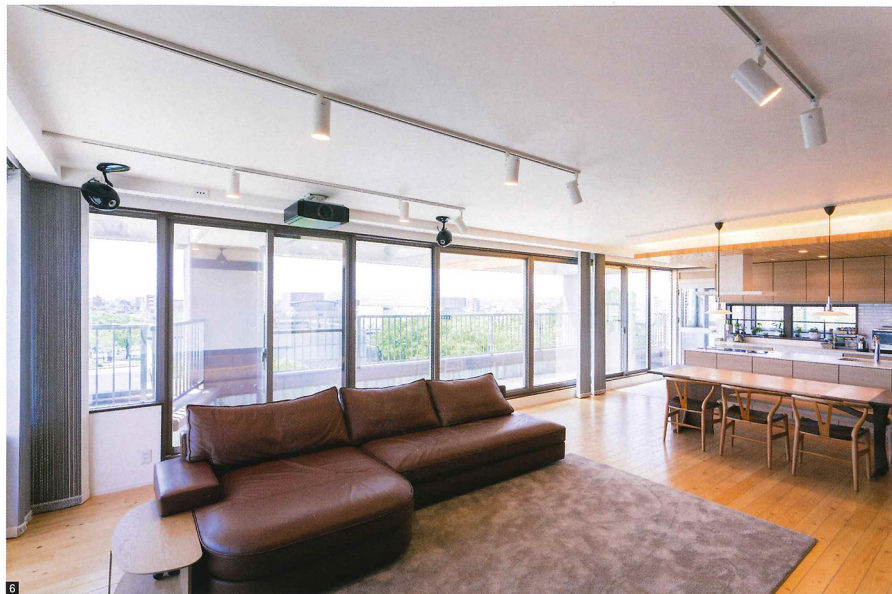
街を一望できる素晴らしい眺望。ここK邸は閑静な住宅街の中でひとつ頭が抜けたマンションの最上階にある。取材班が驚いたのはもちろん眺望だけではない。オーナーのKさんの感性がカタチに現れた美しいLDKにも、しばし言葉を忘れるほどに感動させられた。柱のない大空間はおよそ35畳。このリビング部分にホームシアターがスマートにインストールされている。

映画館のある家②「個人劇場の様式」

**眺望絶佳の観劇空間**

インストール/木田電業 宮崎県 K邸

文/編集部 写真/草野清一郎



6 視聴位置の様子。一面が掃出し窓となっており、外にはバルコニーもある。7 AVアンプは締め切ったラック内にいれると熱が篋ってシャットダウンしてしまうこともある。そこでK君ではそうしたトラブルを防ぎつつ、ラック内をスッキリさせるために、隣室に設えたストレージに設置している。8 サブウーファー、イクリプス「TD316SWMK2」は、キャビネットが振動しないので、ラック内に入れている。9 レコーダーやゲームなど、ディスクの管理が必要な機器はラック内に収めている。



## レイアウトを追求して 最上の音質と使い勝手を実現

### SYSTEM LIST

- プロジェクター：JVC DLA-X550R
- スクリーン：オーエス SEP-130HM-MRK2
- 液晶テレビ：シャープ LC-55U30
- ブルーレイレコーダー：パナソニック DMR-BWT660
- AVアンプ：インテグラ DTR-30.7
- フロントスピーカー：イクリプス TD508MK3
- センタースピーカー：イクリプス TD508MK3
- リアスピーカー：イクリプス TD508MK3
- サブウーファー：イクリプス TD316SWMK2
- ホームオートメーション：CRESTRON CP3
- コントローラー：Apple iPad/iPhone
- 調光装置：パナソニック リンクライオン

### ROOM DATA

住宅形態：マンション/リフォーム  
 家族構成：夫婦+子ども  
 ホームシアターの広さ：35畳（LDK全体）  
 画面サイズ：130インチ+55インチ  
 サラウンド：5.1ch  
 インストール内容：機器設置、システム  
 プランニング、ホームネットワーク  
 かんたん操作、照明デザインほか

設計・施工/  
 株式会社下森建築  
<http://www.simomorikenso.co.jp/>

### INSTALL 木田電業

〒889-1801 宮崎県都城城市之口町富吉4192-4  
 ☎0986-57-4305 <http://www.kida-dengyo.com/>



インストーラー  
 木田弘信氏  
 philenumber:2169

#### オートメーション化に長ける

ホームシアターを本格的に扱う以前より、ホームオートメーション機器のプログラムを得意としていた気鋭のショップ。メーカーが推奨する理想の設置を追求するなど、丁寧なインストールで注目を集めている。



11 壁面にはカタチも色も異なる自然の石を乱貼りして、高級ホテルのような重厚感を演出している。

12 130インチのスクリーンサイズを巻き取ると、55インチのテレビが壁掛けされている。乱貼りしている石壁とは一転して、テレビの背面の壁にはホワイトボードで水平ラインを意識した石壁の壁になっている。Kさん(philenumber:2323)の感性が垣間見える場所でもある。13 リアスピーカーはフロントスピーカーと同様にイクリプス「TD508MK3」を選択。リアスピーカーはコストを抑えるケースも多いなか、音に統一感を生み出すため木田氏が提案した。14 プロジェクターはJVCの4K対応モデル「DLA-X550R」を採用。



「130インチのスクリーンは本当に大きいですね。週末になるといつも子どもと一緒にブルーレイを借りてきて映画を観ています。子どもたちはサッカーゲームなど、自由にかかっていますね」と、Kさん。  
 空間だけでなく操作性までスマートに美しくこだわる。誰もが羨む完全無欠のホームシアターである。

「は、イクリプスの「TD508MK3」で統一。音の位相をピタリと合わせられ、スピーカーの存在を感じさせず臨場感を生み出す。そしてJVCの4K映像を受け止めるスクリーンは130インチと、その大きさにもこだわった。  
 そしてKさんが重視したのは、機器の操作性である。木田氏はワンタッチでホームシアターがはじまるオペレーションを組むだけでなく、電動ブラインドや照明、床暖房に至る室内のあらゆる電化製品をiPadから操作できるようにしている。ブラインドなどのオン・オフだけでなく、簡易リモコンの方が便利なきも必要となる動作は煩雑である。いまではiPhoneなども使い、お子様でも操作できるようになっている。